



《現状把握》

国語では、学習への関心等で文章読解に対する肯定的回答が7割を超えている。また、「読書が好きですか」に対しても全国平均を超える7割が肯定的な回答をしている。「書くこと」がやや低く、記述式の無回答率も平均を超える。

数学では、「数学の勉強は好きか」に対して全国の平均正答率を超えている。「数と式」「資料の活用」に比べ「図形」と「関数」の正答率が低い。特に立体の体積に関する問題の正答率が低い。

《授業改善のポイント》

国語では、適切な語句を用いて効果的に伝える文章を書き表現できる力を身に付けさせる。資料をよく読み取り、自分の考えや体験談などを書きまとめる。そして、お互いの発表や文章を検討し合う評論活動を行い、共同的に言語能力を高めていく。

数学は、計算力や基礎力を身につけるために各章の導入に力を入れ、プリントや演習を多く取り入れる。

図形や関数ではじっくり考えさせるため教えあう活動を増やす、教具を工夫するなど様々な視点から考えさせるようにする。

《チャートの特徴》

国語Aでは4.2、国語Bでは5.9 全国の平均正答率を下回っている。数学は、関心について全国の平均正答率を超えているが、ABともに下回っている。規範意識、生活習慣、言語活動については、平均値と同程度である。学習習慣、特に「家で学校の授業の復習をしていますか」に対する回答は下回っている。自尊感情については昨年度の本校の結果を若干下回っている。成功体験については肯定的回答が高いが、「自分によいところがあるか」に対する回答が下回っていることが原因と思われる。

《家庭・地域への働きかけ》

学力の向上を目指す上で家庭での学習習慣を定着していくことが課題の一つであると考えられる。これまでも家庭で取り組む学習課題を設定し働きかけを行ってきたが、さらに内容や方法を再考し計画的に実施していきたい。